

Saramonic

Intercom System Master Console
インターコムシステムマスターコンソール

WiTalk BASE

1 製品概要

1.1 システム概要

WiTalk BASE は、映像・テレビ制作、ライブイベント、現場での進行管理など、プロ向けチームコミュニケーション用のフルデュプレックス無線インターコムシステムです。このシステムは、プッシュアウト操作なしで複数ユーザーの同時通話と受話をサポートし、複雑な現場環境において、チーム間のリアルタイム音声コミュニケーションを実現します。

1.2 システム機能

- 1 台の WiTalk BASE ステーションに最大 16 台の端末デバイスを接続でき、複数のベースステーションのカスケード接続によって大規模な展開も実現できます。
- このシステムは最大 8 つの独立したトークグループをサポートし、ディレクターグループ、カメラグループ、ライティンググループ、オーディオグループなど複数グループの並行通信ニーズを満たします。
- ベースステーションとヘッドセット間の通信範囲は、障害物のない見通し距離の条件下で最大 500 メートルに達します。実際の通信範囲は、現場の障害物、設置高さ、電磁環境、使用条件によって異なる場合があります。
- WiTalk BASE ステーションは LAN による有線カスケード接続をサポートし、最大 4 台のベースステーション、合計最大 64 台の端末デバイスへのシステム拡張を可能にします。
- 複数のベースステーションによるカバレッジシナリオでは、接続済み端末が異なるベースステーションのカバレッジエリア間を自動的にローミングして切り替えることができます。

1.3 音声性能

- 16kHz のオーディオサンプリングレート、100Hz~7kHz の周波数特性範囲、S/N 比>55 dB、歪み率<1% を備えた広帯域音声通信をサポートします。
- ENC マルチマイクアレイとノイズリダクションアルゴリズムを採用し、複雑な騒音環境における背景干渉を抑制することで、音ご使用上の注意瞭度と通信効率を向上させます。
- 強力な耐干渉性能を持つ 1.9 GHz DECT 無線伝送ソリューションを採用しています。利用可能な具体的な周波数帯域、認証要件、販売バージョンは、対象市場の規制および実際の出荷バージョンに準拠します。

1.4 インターフェースと拡張

- ベースステーションには LAN、4 線接続、UAC、3.5mm などのインターフェースが装備されており、ミキシングコンソール、双方向無線機、コンピュータ、その他のデバイスとの音声接続および信号連携に対応しています。
- DHCP と固定 IP ネットワーク設定をサポートし、さまざまな LAN 環境でのコントロール管理、システム設定、メンテナンスを容易にします。
- 4W インターフェースを介して、特定のサードパーティ有線インターコムまたは音声システムとの音声相互接続をサポートします。リモートデバイスのインターフェース定義、ピンアウト、レベル設定に依存します。

1.5 電源と管理

- V-Mount / G-Mount バッテリーおよび DC アダプターの電源供給をサポートし、さまざまな現場展開要件に対応します。
- ベースステーションのローカルインターフェース、コントロールインターフェース、ファームウェアを介した設定と管理をサポートします。
- ベースステーションはローカルおよびオンラインのファームウェアアップグレードをサポートします。ヘッドセットのファームウェアアップグレード方法は、特定のモデルおよび現在のシステム設定によって異なります。詳細な手順については、対応するチャプターを参照してください。

2 梱包リスト

2.1 キット説明

WiTalk BASE は複数のキット構成で提供されており、パッケージ内容はモデルによって異なる場合があります。実際に購入したバージョンおよびパッケージに同梱されている梱包リストカードを参照してください。

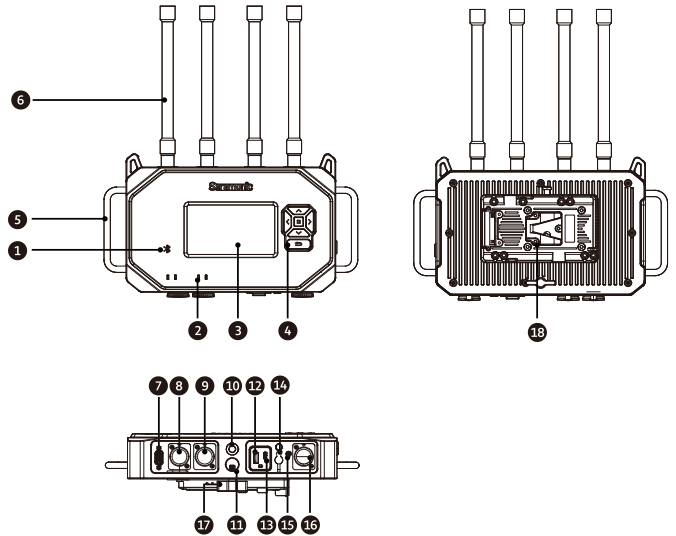
2.2 パッケージ内容

- WiTalk BASE ステーション
- 片耳ヘッドセット(キットバージョンにより構成が異なります)
- 両耳ヘッドセット(キットバージョンにより構成が異なります)
- ヘルメットヘッドセット(キットバージョンにより構成が異なります)
- ヘッドセット外部バッテリー
- 10 スロット充電ケース
- オーバーイヤイヤパッド
- オンイヤフォームクッション
- 片耳ヘッドパッド

- マイクウインドスクリーン
- USB Type-A to Type-C ケーブル
- ベースステーションアンテナ
- ユーザーマニュアル
- 保証書

3 ベースステーションの構造とインターフェースの説明

3.1 ベースステーションの外観とコンポーネント名称



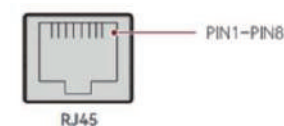
WiTalk BASE ステーションは以下の主要コンポーネントで構成されています:

- Bluetooth インジケータライト
- IP ステータスインジケータライト
- ディスプレイ
- ファンクションボタンエリア
- ハンドル
- アンテナコネクタとアンテナ
- 予約済み拡張ポート(現行バージョンではユーザー操作不可)
- RJ45 LAN 1 ポート
- RJ45 LAN 2 ポート
- 3/8 インチ取り付けネジ穴
- 5/8 インチ取り付けインターフェース
- USB-A ポート
- USB-C ポート
- DC 電源ポート
- 3.5 mm オーディオポート
- RJ45 4W 音声ポート
- ロックノブ
- V-Mount / G-Mount バッテリープレート取り付け位置

3.2 RJ45 LAN 1 / RJ45 LAN 2 インターフェースの説明

ピンアウト

RJ45 LAN 1 / RJ45 LAN 2 ポートは、WiTalk BASE ステーション間の LAN カスケード接続とシステム同期に使用されます。これらのポートは主に、複数ベースステーション拡張シナリオにおけるオーディオ、グループ、システム管理データの伝送に使用されます。



標準ピンアウト

- PIN 1 送受信データ+
- PIN 2 送受信データ-
- PIN 3 受信データ+
- PIN4 CLK100Hz+
- PIN5 CLK100Hz-
- PIN6 受信データ-
- PIN7 CLK GND
- PIN8 CLK GND

使用上の注意

これらのポートは、WiTalk BASE ステーション間のシステム相互接続専用です。

これらのポートを汎用ネットワークスイッチポート、PoE ポート、またはその他の汎用 RJ45 ポートとして使用することは推奨されません。ベースステーションをカスケード接続する場合、外部電磁干渉がシステムの安定性に与える影響を軽減するため、CAT5e または CAT6 シールドケーブルの使用を推奨します。

1 本のケーブルセグメントの長さは 100 メートルを超えないことを推奨しま

す。

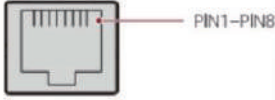
注意事項

LAN カスケード接続はデジタル信号の相互接続であり、WiTalk BASE ステーション間の通信のみをサポートします。

ルーターやその他のサードパーティデバイスには接続しないでください。複数ベースステーションシステムについては、ネットワークロール設定のセクション 4.5 を参照してください。

3.3 RJ45 4W 音声インターフェースの説明

RJ45 4W 音声ポートは、WiTalk BASE と類似システムまたは特定のサードパーティ有線インターコム/音声システム間の 4W 音声相互接続に使用されます。このインターフェースは標準とクロスオーバーの両方のピン構成をサポートし、WiTalk システム内部の接続またはサードパーティシステムとのインターフェースに使用されます。



4 線接続

ピンアウトモード

RJ45 4W 音声ポートは以下の 2 つのモードをサポートします：

1. スタンダードモード

WiTalk システム内部の接続、または WiTalk と一致するピン定義を持つ外部デバイスに適しています。

| 標準ピンアウト | |
|---------|------------|
| PIN 1 | GND |
| PIN 2 | GND |
| PIN 3 | Audio In+ |
| PIN 4 | Audio Out+ |
| PIN 5 | Audio Out- |
| PIN 6 | Audio In- |
| PIN 7 | GND |
| PIN 8 | GND |

2. クロスオーバーモード

入出力ピン定義が逆になっている特定のサードパーティデバイスとの接続に適しています。

| クロスオーバーピン構成 | |
|-------------|------------|
| PIN 1 | GND |
| PIN 2 | GND |
| PIN 3 | Audio Out+ |
| PIN 4 | Audio In+ |
| PIN 5 | Audio In- |
| PIN 6 | Audio Out- |
| PIN 7 | GND |
| PIN 8 | GND |

使用上の推奨事項

サードパーティシステムに接続する際、以下の問題が発生した場合：

- ・ 音声なし
- ・ 入出力方向の異常
- ・ レベルの異常
- ・ 送受信音声の不一致
- ・ まずリモートデバイスのインターフェース定義を確認し、次に WiTalk BASE メニューでスタンダードモードとクロスオーバーモードを切り替えて再テストしてください。

注意事項

1. 4W ポートはアナログ音声インターフェースであり、音声信号のみを伝送し、システム制御またはネットワーク同期情報は伝送しません。
2. 互換性はリモートデバイスのインターフェース定義、ピン構成、レベル設定に依存します。
3. サードパーティデバイスが標準 RJ45 配線方式を使用していない場合、互換性のあるアダプターソリューションが必要です。
4. 音量差が顕著な場合は、ベースステーションメニューの 4W 入出力設定でレベルゲインを調整できます。

3.4 製品パラメーター

ベースステーションの基本パラメーター

| ベースステーションの基本パラメーター | |
|--------------------|---------------------------|
| 製品名 | WiTalk BASE ステーション |
| 伝送距離 | 500 m |
| 無線送信電力 | ≤21 dBm |
| チャンネル幅 | 1.728 MHz |
| 変調方式 | GFSK |
| 周波数特性 | 100 Hz~7 kHz(±3 dB)@1 kHz |
| 受信感度 | ≤-90 dBm |

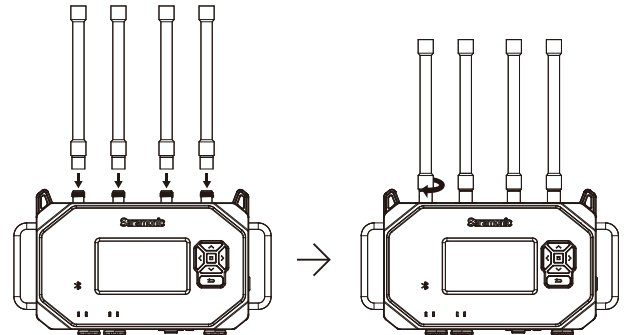
| | |
|-------------------|---|
| S/N 比 | >55dB |
| 歪み率 | <1% |
| アンテナゲイン | 4 dBi(全方向性) |
| 電源パラメーター | |
| DC 電源範囲 | 7~30V、<1 A@12 V |
| V/G マウントバッテリー電源範囲 | 11~30V、<1 A@12 V |
| 総消費電力 | <1 A@12 V |
| 機械パラメーター | |
| 寸法 | 325×182×79mm (アンテナなし) 325×430×79mm(アンテナあり) |
| 重量 | 1,960 g(アンテナなし)2,490 g(アンテナあり) |
| 環境パラメーター | |
| 動作温度 | -10° C ~ 45° C |
| 保管温度 | -20° C~60° C |

4 製品の使用方法

4.1 アンテナ取り付け

安定した無線カバレッジを実現するため、WiTalk BASE は 2 種類の一般的なアンテナ取り付け方法をサポートしています。2 つの取り付け方法があります：1 つは並列配置、もう 1 つはクロスポーラライズド配置です。

方法 1: 並列アンテナ配置



適用シナリオ：

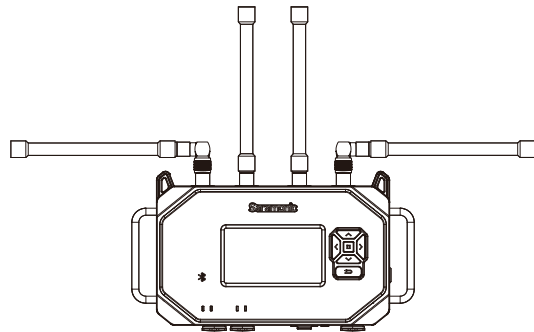
固定設置、オープンエリアの展開、または障害物が少ない場所に適しています。

特徴：

アンテナの向きを一定に保つのに役立ちます。標準的な固定展開シナリオに適しています。

方法 2: クロスポーラライズドアンテナ配置

最初にアダプターを取り付け、次に図に示すようにアンテナを取り付け、アンテナがクロスポーラライズド配置になるようにします。



適用シナリオ：

室内環境、マルチパス反射環境、複雑な障害物がある場所、または人の動きが多い場所に適しています。

特徴：

リンクの安定性と耐障害性の向上に役立ちます。

取り付けの推奨事項

アンテナ取り付け後、すべてのアンテナが締め付けられ、しっかりと固定されていることを確認してください。

使用中は、アンテナが金属構造物、壁、または大型機器によって完全に遮られないようにしてください。

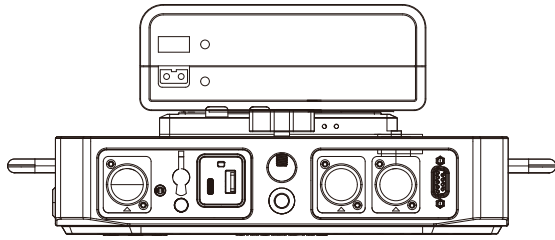
現場環境が複雑な場合は、リンクの安定性を向上させるためにまずクロスポーラライズド配置をお試しください。

4.2 電源接続

WiTalk BASE はバッテリーまたは DC アダプターによる電源供給をサポートしています。

方法 1: バッテリー電源供給

購入したキットとバッテリーの種類に応じて、対応する V-Mount バッテリープレートまたは G-Mount バッテリープレートをベースステーションに取り付けてください。

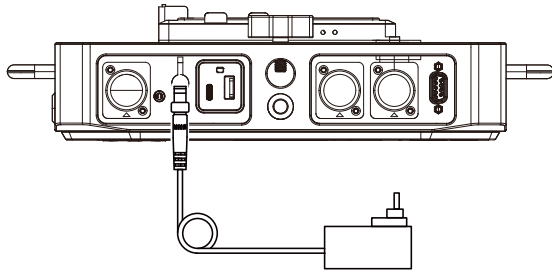


操作上の推奨事項:

1. バッテリープレートを取り付けまたは交換する前に、ベースステーションの電源がオフになっていることを確認してください。
2. 取り付け後、プレートがしっかりと固定されていることを確認してください。
3. バッテリーを接続した後、電源ボタンを押して電源をオンにしてください。

方法 2: DC アダプター電源供給

DC アダプターをベースステーションの DC 電源ポートに接続してください。電源を接続した後、電源ボタンを押して電源をオンにしてください。

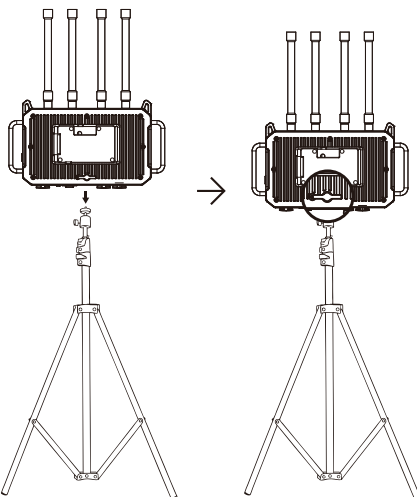


操作上の推奨事項:

1. 本機の仕様と適合した電源アダプターを使用してください。
2. 電源電圧と電流範囲については、セクション 3.4 を参照してください。
3. 長期間の固定展開では、まず外部電源の安定性を確認することをお勧めします。

4.3 三脚への取り付け

WiTalk BASE は三脚またはその他の安定したサポートシステムに取り付けることができます。



取り付け手順

- ① ベースステーションを三脚またはサポートシステムに取り付けます。
- ② ロックノブを締めて、ベースステーションがしっかりと固定されていることを確認します。
- ③ 必要に応じて、全体的な安定性を向上させるために砂袋またはその他のカウンターウェイトを追加します。

設置の推奨事項

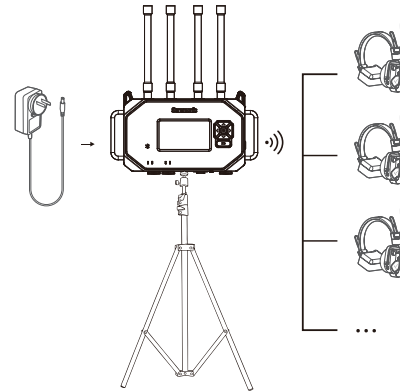
- ① 無線カバレッジを向上させるため、ベースステーションを約 1.7 メートルまたはより適切な高さに設置することをお勧めします。
- ② ベースステーションの周囲に大型の金属製障害物、厚い壁、または強力な電磁干渉源を置かないようにしてください。
- ③ 複雑な現場の展開では、視線が開けていてベースステーションの操作

が容易な安定した場所を優先してください。

4.4 製品の接続

4.4.1 キットの使用方法

完全キットを購入したユーザーは追加のペアリングは不要です。ベースステーションとヘッドセットは工場出荷時にペアリング済みです。



使用手順:

- ① ベースステーションを電源に接続して電源をオンにします。
- ② ヘッドセットの電源をオンにします。
- ③ ヘッドセットが自動的にベースステーションを検索して接続します。
- ④ 接続が完了したら、通話を開始できます。

推奨事項

より安定した自動接続エクスペリエンスのために、最初にベースステーションをオンにし、次にヘッドセットを 1 つずつオンにすることをお勧めします。

4.4.2 旧来のヘッドセットとベースステーションのペアリング

旧来の WiTalk シリーズヘッドセットを WiTalk BASE ステーションとペアリングする場合は、まずヘッドセットのモデルと対応するアップグレード方法を確認してください。

互換性に関する注意事項

WiTalk5: WiTalk BASE との互換性はありません。

WiTalk9: WiTalk BASE と互換性あり。無線ペアリングと BLE アップグレードのみサポート。

WiTalk9 X: WiTalk BASE と互換性あり。USB 有線アップグレードをサポート。

WiTalk9 X 有線アップグレード

ヘッドセットが USB によるアップグレードをサポートしている場合は、以下の手順に従ってください:

手順:

USB ケーブルを使用してヘッドセットを WiTalk BASE ステーションの USB-A ポートに接続します。

ベースステーションがヘッドセットのファームウェアバージョンが現在のシステムバージョンと異なることを検出すると、画面に自動的にアップグレードプロンプトが表示されます。

「はい」を選択すると、システムが接続されたヘッドセットのファームウェアアップグレードを開始します。

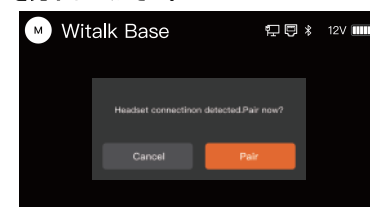
アップグレード中は、ヘッドセットのインジケータライトが点滅します。アップグレードが完了すると、ヘッドセットは自動的に電源オフまたは再起動します。

ベースステーションがアップグレード画面を終了した後、アップグレードされたヘッドセットの電源を再びオンにして通常使用してください。

注意:

アップグレードプロセス中は電源を切断したりケーブルを抜いたりしないでください。

WiTalk BASE システムに接続するには、まずヘッドセットのアップグレードを完了してください。



WiTalk9 無線アップグレードと無線ペアリング

WiTalk9 は WiTalk BASE ステーションへの有線接続をサポートしていません。

まず無線ペアリングを完了し、次に BLE アップグレードを行う必要があります。

手順:

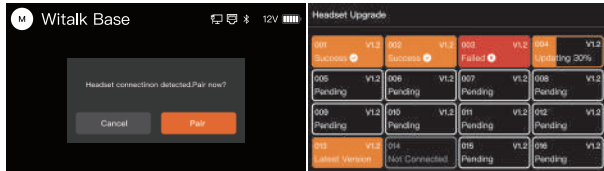
- ① ペアリングモードに入る

ベースステーションのメニューで以下を選択します:

[メニュー] → [ヘッドセット管理] → [ヘッドセットペアリング]
 ベースステーションがペアリングモードに入ると、画面に「ペアリング中」プロンプトが表示されます。

② ヘッドセットの電源をオンにしてペアリングに入る
 WiTalk9 ヘッドセットの電源ボタンを 8 秒間押し続けます。ヘッドセットがペアリングモードに入り、ベースステーション信号を検索し始めます。信号が正常に検出されると、ベースステーションが自動的にヘッドセットとの接続を確立します。

③ ファームウェアアップグレード
 ベースステーションがヘッドセットのファームウェアバージョンが現在のシステムバージョンと一致しないことを検出すると、システムが自動的に BLE アップグレードプロセスを開始します。



「はい」を選択した後、システムはアップデートが必要なすべての接続済みヘッドセットに無線アップグレードを実行します。

④ アップグレード完了
 アップグレードが完了すると、ヘッドセットは自動的に再起動します。

⑤ ペアリング完了/終了
 ペアリングプロセス中、ベースステーション画面にリアルタイムで表示されます。現在接続されているヘッドセット数
 現在ペアリング中のヘッドセット数

ベースステーションに登録されているヘッドセットの合計数が 16 台に達すると、システムは自動的にペアリングモードを終了し、「ペアリング完了」プロンプトを表示します。

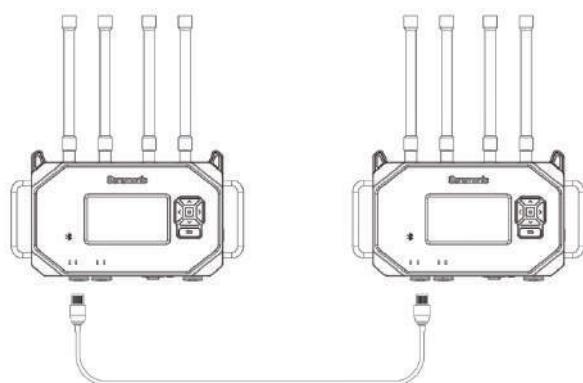
ユーザーは「ペアリング終了」を手動で選択して終了することもできます。設定された時間内にヘッドセットの接続が検出されない場合、システムは自動的に終了し、「ペアリング終了、ヘッドセットのペアリングなし」プロンプトを表示します。

注意:
 無線ペアリングは手動番号選択をサポートしていません。システムはヘッドセットの接続順序に基づいてチャンネルと番号を自動的に割り当てます。ベースステーションがペアリングモードに入ると、画面に「ペアリング中」プロンプトが表示されます。

4.5 製品のカスケード接続

4.5.1 デュアルベースステーション LAN カスケード接続

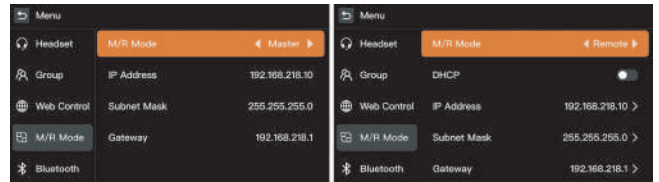
2 台の WiTalk BASE ステーションでより広いカバレッジまたは高いシステム容量を実現する必要がある場合、RJ45 LAN インターフェースを介してカスケード接続できます。この方法は WiTalk BASE ステーション間の相互接続専用であり、システム信号と音声の同期伝送に使用されます。



CAT5e / CAT6 シールドイーサネットケーブルを使用して、2 台の WiTalk BASE ステーションの RJ45 ポート (LAN1) を接続します。ケーブルの総長は 100 メートルを超えてはなりません。

設定手順

2 台のベースステーションそれぞれで以下の設定を構成します：
 ベースステーション①: [ネットワーク設定] → [マスター/スレーブモード] に移動し、マスターを選択します。
 ベースステーション②: [ネットワーク設定] → [マスター/スレーブモード] に移動し、スレーブを選択します。



システムの説明

2 台のベースステーションが RJ45 LAN ポートを介してカスケード接続されると、音声、グループ設定、通話管理情報を同期できます。カスケード接続が完了すると、スレーブステーションのヘッドセットユーザーがマスターステーションのグループと通信し、ベースをまたいだインターコムが可能になります。

注意事項

LAN カスケード接続はデジタル信号の相互接続であり、WiTalk BASE ステーション間の通信のみをサポートします。

ルーターやその他のサードパーティデバイスには接続しないでください。外部電磁干渉を避けるため、シールドイーサネットケーブルの使用を推奨します。

1 本のケーブルは 100 メートルを超えてはなりません。

① 接続方法

CAT5e / CAT6 シールドイーサネットケーブルを使用して、2 台の WiTalk BASE ステーションの RJ45 ポート (LAN1) を接続します。ケーブルの総長は 100 メートルを超えてはなりません。

光ファイバー接続の説明

WiTalk BASE の LAN1 / LAN2 インターフェースは光ファイバーケーブルの直接接続をサポートしていません。

現場の配線距離が長い場合、または光ファイバーリンクを介した伝送が必要な場合は、以下のソリューションを推奨します：

WiTalk BASE の LAN インターフェースと光ファイバーリンクの間にメディアコンバーターを追加します。

まず、標準イーサネットケーブルを使用してベースステーションをメディアコンバーターの電気ポートに接続します。

次に、2 台のメディアコンバーターを光ファイバーケーブルで接続してリンクを延長します。

メディアコンバーターおよび関連するスイッチング/伝送機器は、現場のネットワーク環境に応じてユーザーが設定する必要があります。

推奨事項:

産業グレードまたは放送グレードのメディア変換機器を優先して使用してください。システムを本番環境に導入する前に、リンクの接続性と安定性テストを完了してください。

4.5.2 複数ベースステーション LAN カスケード接続

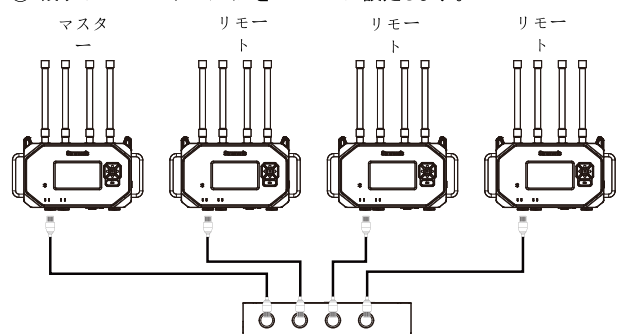
より大規模なチームコミュニケーションシステムが必要な場合、最大 4 台の

WiTalk BASE ステーションをカスケード接続で相互に接続できます。

接続方法

- CAT5e / CAT6 シールドイーサネットケーブルを使用して、各ベースステーションの LAN1 インターフェースを外部カスケードディストリビューターに接続します。
- 各ベースステーションは独立して電源を供給します。
- ベースステーションメニューでマスター/スレーブ関係を設定します：

- 最初のユニットをマスターに設定します。
- 残りのベースステーションをスレーブに設定します。



システムの説明

複数ベースステーションのカスケード接続後、ベースステーション間のネットワーク信号と音声の相互通話が有効になり、システムカバレッジとアクセス容量が拡張されます。

注意事項

システムは最大 4 台の WiTalk BASE ステーションのカスケード接続をサポートします。

カスケード接続は同一モデルの WiTalk BASE ステーション間でのみサポートされます。

ケーブル長は 100 メートルを超えてはなりません。

RJ45 を介したカスケード接続は、ベースステーション間のネットワークと音声の相互通話のみを可能にします。

光ファイバー接続の説明

複数のベースステーション間の展開距離が標準イーサネットケーブルの適用範囲を超える場合、イーサネットケーブル+メディアコンバーター+光ファイバーリンク+メディアコンバーター+イーサネットケーブルの構成でリンクを延長できます。

注意:

光ファイバーケーブルは LAN1 / LAN2 インターフェースに直接接続できません。

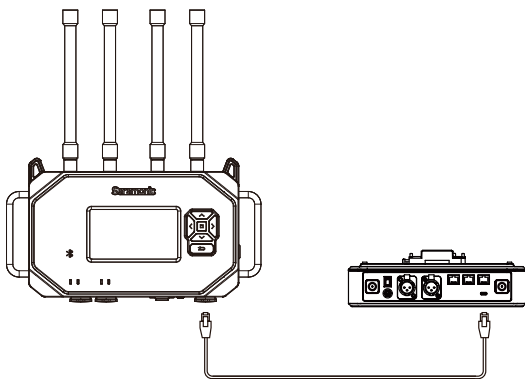
光ファイバー延長ソリューションでは、両端のネットワーク機器の互換性と安定した電源供給を確保する必要があります。

ライブパフォーマンスまたは正式なプロジェクト展開の前に、完全なカスケードリンクテストを完了することをお勧めします。

4.5.3 サードパーティシステムとの 4W 音声相互接続

WiTalk BASE は、4 線接続(RJ45)インターフェースを介してサードパーティの有線インターコムまたは音声システムとの音声相互接続をサポートします。

この機能により、WiTalk システムとサードパーティのベースステーション間の双方向音声通信が可能になり、大規模イベント、放送スタジオ、またはクロスシステム協調シナリオに適しています。



接続方法

標準の CAT5e / CAT6 イーサネットケーブルを使用して、WiTalk BASE をサードパーティのベースステーションの 4 線接続インターフェースまたは差動音声インターフェースに接続します。

ケーブルの総長は 100 メートルを超えてはなりません。

注意事項

- 4W インターフェースはアナログ音声信号インターフェースであり、音声信号のみを伝送します。
- システム制御、グループ管理、またはネットワーク同期情報は伝送しません。
- サードパーティのベースステーションの 4W インターフェースタイプとピン定義を確認してください。
- 音量差が顕著な場合は、WiTalk BASE の[オーディオ設定] → [4W 入出力]でレベルゲインを調整してください。

インターフェースアダプターの説明

WiTalk BASE は 4 線接続インターフェースのピンアウト定義を提供します。ケーブル改造能力があるユーザーは、サードパーティのマスターデバイスのインターフェースタイプとピン定義に従って、アダプターケーブルを製作または改造して接続を完成させることができます。

例えば、ユーザーは RJ45 端を改造して対象デバイスの以下に対応させることができます:

- XLR インターフェース
- Phoenix インターフェース
- その他の対応するアナログ音声インターフェース

推奨事項:

- ケーブルを改造する前に、サードパーティデバイスの入出力定義、バランス構成、レベル要件を確認してください。
- ケーブル改造の経験がない場合は、音声システムの配線経験がある技術者による作業をお勧めします。
- 接続前に単体音声テストを実施し、送受信方向とレベルが正常であることを確認してからシステムを本番環境に導入してください。

ピンアウトモード

他のシステムが「ストレート」ポートを使用している場合は、WiTalk BASE で [スタンダードモード] を選択してください。

他のシステムが「クロスオーバー」ポートを使用している場合は、WiTalk BASE で [クロスオーバーモード] を選択してください。

4.6 クイックグループ設定

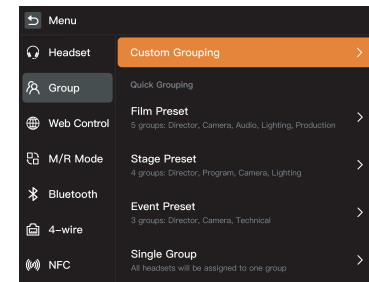
WiTalk BASE は最大 8 つのトークグループをサポートし、ヘッドセットの新しいロールコンセプトを導入しています。ロールベースのグループ分けメカニズムにより、ユーザーはベースステーション、ローカルコントロールインターフェース、またはモバイルファームウェアで「ワンクリックグループ設定と迅速な設定」を実現でき、電源オン前に各ヘッドセットのパラメーターを個別に設定する必要が減ります。

以下では、ベースステーション操作を例として、グループ分けとロール割り当てを迅速に完了する方法を説明します。

① グループ設定に入る

ベースステーションのメニューボタンを長押しして、メインメニューに入ります。

メニューから [グループ設定] を選択して、グループ設定インターフェースに入ります。



② プリセットプランを選択する

[グループ設定] ページに入ると、システムは以下のプリセットプランを提供します:

カスタムグループ設定: ユーザーはプロジェクトの要件に応じてロールとグループ数を自由に設定できます。

映像・テレビプリセット: 映像・テレビ制作、コマーシャル、短編ドラマ、その他の共同作業シナリオ (ディレクター、カメラ、音声、ライティングなど) に適しています。

ステージプリセット: ステージパフォーマンス、会議、大規模イベント、その他の固定ポジションシナリオに適しています。

イベントプリセット: 会議、展示会、記者会見、イベント実行チームなどのモバイルシナリオに適しています。

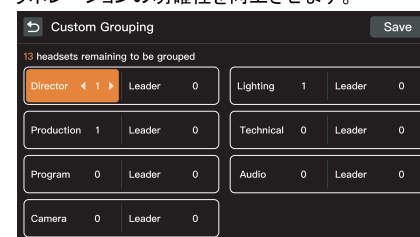
1 グループモード: すべての通信デバイス (ヘッドセット、4W、UAC、3.5mm など) を同じグループに割り当て、完全な相互通話を有効にします。[カスタムグループ設定] をクリックしてロール割り当てページに入り、各ロールのヘッドセット数を手動で調整できます。

③ ロールグループの説明

WiTalk システムでは、ロールグループは各ポジションの通信属性と権限を定義するために使用されます。各ロールは通信ポジション (ディレクターグループ、カメラグループ、ライティンググループなど) を表すだけでなく、システム内のそのグループのヘッドセットのグループ割り当て、A/B グループ関係、通信モードも決定します。

ロールグループは以下のように理解できます:

ポジションアイデンティティ + 通信権限 + グループ関係。ロールグループ設定により、ユーザーはさまざまなシナリオの通信構造を迅速に確立し、「ポジション = グループ」のロジックを実現することで、展開効率とチームコラボレーションの明確性を向上させます。



④ 管理グループの説明

グループ 1 はデフォルトの管理グループです。

チームリーダーに指定されたロールのみがグループ 1 に参加できます。管理グループのロールに対して、管理メンバー間の優先通信を容易にするため、グループ 1 がデフォルトとして設定されています。

⑤ A/B グループの説明

A/B 仮想グループ設定が完了すると、各ヘッドセットはグループボタンを使用してグループ A とグループ B を切り替えることができます。

A: ヘッドセットのデフォルトグループ

B: ヘッドセットが切り替えることができるもう 1 つの仮想グループ

A/B グループ設定が完了すると、ヘッドセットはグループ A とグループ B の両方の音声を同時に聴くことができます。

ただし、音声は現在アクティブなグループにのみ送信されます。

例えば:

ヘッドセットが現在グループ A にある場合、音声はグループ A にのみ送信されます。グループ B で話すには、ヘッドセットのグループボタンを押して先にグループ B に切り替える必要があります。

⑥ ロールグループの説明 (カスタム設定を例として)

WiTalk BASE には複数の一般的に使用されるロールテンプレートが内蔵されています:

ディレクターグループ、カメラグループ、プロダクショングループ、ライティンググループ、オーディオグループ、テクニカルグループ、グリップグループなど。

各ロールは実際のシナリオに基づいてさまざまなグループチャンネルに割り当てられ、マルチグループ並行通信、グループ間アイソレーション、クロスグループ切り替え通信モードを有効にします。

ロールマトリックスの説明

下の表はロールグループ設定の例を示しています:

行はロールグループを表します

列は通信グループを表します

A はデフォルトグループを示します

B は切り替え可能なもう 1 つのグループを示します。空白はそのグループにロールが割り当てられていないことを示します。

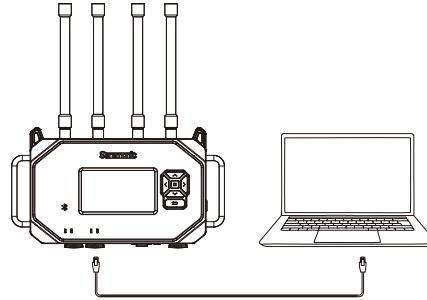
| ロール名 | グループ 1 | グループ 2 | グループ 3 | グループ 4 | グループ 5 | グループ 6 | グループ 7 | グループ 8 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ディレクターリーダー | A | B | | | | | | |
| ディレクターメンバー | | B | | | | | | |
| カメラリーダー | A | | B | | | | | |
| カメラメンバー | | | B | | | | | |
| プロダクションリーダー | A | | | B | | | | |
| プロダクションメンバー | | | | B | | | | |
| ライティングリーダー | A | | | | B | | | |
| ライティングメンバー | | | | | B | | | |
| オーディオリーダー | A | | | | | B | | |
| オーディオメンバー | | | | | | B | | |
| テクニカルリーダー | A | | | | | | B | |
| テクニカルメンバー | | | | | | | B | |
| モバイルリーダー | A | | | | | | | B |
| モバイルメンバー | | | | | | | | B |

4.7 アップグレードの手順

注意:

アップグレードを行う前に、デバイスモデルと対応するアップグレード方法を確認し、必要なファームウェアパッケージを準備してください。

WiTalk BASE ステーションは **コントロールアップグレード**、**OTA オンラインアップグレード**、**USB フラッシュドライブアップグレード** をサポートします。



モバイルファームウェアは WiTalk BASE ステーションのアップグレードをサポートしていません。

異なるヘッドセットモデルのアップグレード方法は以下の通りです:

WiTalk9: 無線アップグレードのみサポート

WiTalk9 X: 有線アップグレードと無線アップグレードの両方をサポート

4.7.1 WiTalk BASE ステーションのアップグレード

方法 1: コントロールアップグレード

コントロールアップグレードを行う前に、対応するファームウェアパッケージをダウンロードしてください。

手順

標準の RJ45 イーサネットケーブルを使用して、ベースステーションの LAN ポートをコンピューターのネットワークポートに接続します。

コンピューターのネットワーク設定を構成して、IPv4 アドレスがベースステーションと同じサブネット上にあるようにします。

例えば: ベースステーションの IP アドレスが 192.168.1.xxx の場合、コンピューターを同じサブネット内のアドレスに設定し、ネットワーク接続を確保します。

コンピューターでコントロールブラウザを開き、アドレスバーにベースステーションの IP アドレスを入力します。

(例: 192.168.1.1) ベースステーションのコントロールログインページにアクセスします。



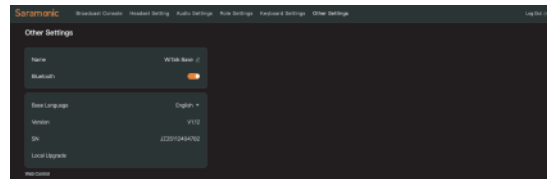
アカウント認証情報を入力してログインします:

ユーザー名: admin

パスワード: 123456

アカウントまたはパスワードが変更されている場合は、カスタム認証情報を入力してログインします。

ログイン後、左メニューから以下を選択します:



[その他の設定] → [ローカルアップグレード];

ファームウェアパッケージをアップグレードページウィンドウにドラッグするか、ページのファイル選択エリアをクリックして対応するファームウェアパッケージを選択します。

ファームウェアのアップロードが完了したら、[アップグレード開始]をクリックします。

システムは自動的にファームウェアアップデートを実行し、アップグレードが完了するとベースステーションは自動的に再起動します。

注意

コントロールアップグレードにはファームウェアパッケージを事前にダウンロードする必要があります。

アップグレードプロセス中は電源またはネットワーク接続を切断しないでください。

アップグレードが完了したら、[バージョン情報]ページで現在のファームウェアバージョンを確認できます。

方法 2: OTA オンラインアップグレード (LAN2 ポートネットワーク)



OTA アップグレードはベースステーションがインターネットに接続されているときに自動的に検出・ダウンロードされるため、ファームウェアパッケージを事前に準備する必要がありません。

手順

- 標準の RJ45 イーサネットケーブルを使用して、ベースステーションの LAN2 ポートをインターネットアクセスのあるルーターまたはスイッチに接続します。
- ベースステーションのメニューボタンを長押しして、ベースステーションメニューに入ります。

以下の順に選択します：

[その他の設定] → [コントロールコントロール]；

自動 IP (DHCP) を有効に設定します。

有効にすると、ベースステーションはルーターから IP アドレスを自動的に取得してネットワーク設定を完了します。

ベースステーションがネットワークに正常に接続されていることを確認します (ネットワークインジケータライトが点灯しているか、ステータスが「接続済み」と表示)。メインメニューに戻り、以下の順に選択します：

[情報] → [ファームウェアのアップグレード]；

システムは最新バージョンを自動的に検出し、アップグレードするかどうかをユーザーに確認します。

アップグレードプロセス中、ベースステーションは自動的にダウンロード、インストール、再起動を行います。

アップグレードが完了すると、ベースステーションは最新バージョンで動作します。

注意：

OTA アップグレードにはファームウェアパッケージを事前にダウンロードする必要はありません。

アップグレードプロセス中はネットワークと電源を安定させてください。

- ネットワーク環境が制限されているかインターネットアクセスが利用できない場合は、コントロールアップグレードまたは USB フラッシュドライブアップグレードを使用してください。
- ユーザーはベースステーション、コントロール、またはファームウェアを通じて [カスタムグループ設定] インターフェイスにアクセスし、上記ロールの数量とロールを調整できます。グループメンバーを自由に追加または削除したり、グループ割り当てを変更したり、任意のロールを「リーダー」に指定したりできます。
- 設定が完了したら、「保存」ボタンをクリックします。システムは設定に基づいてヘッドセットの割り当てを自動的に完了し、すべての接続済みヘッドセットに同期します。
- ヘッドセットとロールの割り当てが完了すると、ユーザーは割り当てられたグループに従ってグループ通信を行うことができます。すべての設定は自動的に保存され、次の電源オン時に保持されます。

方法 3: USB フラッシュドライブアップグレード

USB フラッシュドライブによるアップグレードを行う前に、必要なファームウェアパッケージを準備し、ファームウェアファイルを USB フラッシュドライブのルートディレクトリにコピーしてください。デバイスは EXFAT および FAT32 フォーマットの USB フラッシュドライブをサポートします。

A. システムファームウェアアップグレード

手順：

システムファームウェアファイルを USB フラッシュドライブのルートディレクトリにコピーします。USB フラッシュドライブをデバイスの TYPE-A USB ポートに挿入します。

システムがファームウェアバージョンの不一致を検出すると、自動的にインストールインターフェイスに入り、インストールの進行状況を表示します。

アップグレードが完了すると、ベースステーションは自動的に再起動します。

B. ファームウェアファームウェアアップグレード

手順：

ファームウェアファームウェアファイルを USB フラッシュドライブのルートディレクトリにコピーします。

USB フラッシュドライブをデバイスの TYPE-A USB ポートに挿入します。システムがファームウェアファームウェアバージョンの不一致を検出すると、自動的にインストールインターフェイスに入り、インストールの進行状況を表示します。

アップグレードが完了すると、ベースステーションは自動的に再起動します。

注意：

USB フラッシュドライブアップグレードにはファームウェアパッケージを事前にダウンロードする必要があります。

システムファームウェアとファームウェアファームウェアを同時に USB フラッシュドライブのルートディレクトリに置いてアップグレードすることはできません。

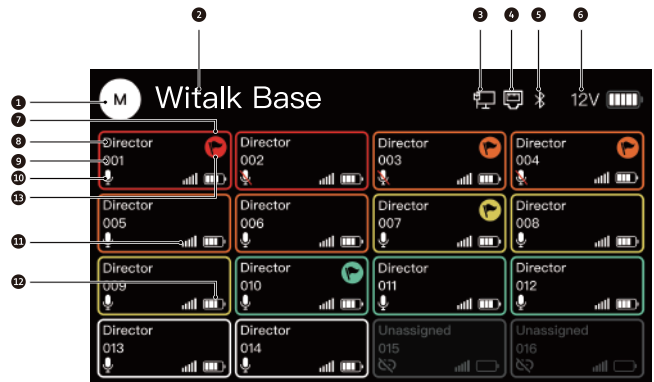
一度に 1 つのファームウェアファイルのみ配置できます。

ファームウェアアップグレードが完了したら、別のファイルをコピーしてアップグレードする前に現在のファームウェアファイルを削除してください。

ベースステーションの [メニュー] キーを約 3 秒間長押しして、メインメニューインターフェイスに入ります。

5 ベースステーションのメニュー操作








5.1 ベースステーションのホーム画面ステータスの説明



Witalk BASE のホーム画面には、システムの動作ステータス、ネットワーク接続ステータス、および各ヘッドセットの接続・通話ステータスが表示されます。

ユーザーはホーム画面で現在のベースステーションロール、ネットワークステータス、電源ステータス、および各ヘッドセットのロール、番号、オンラインステータス、ミュートステータス、信号強度、バッテリー残量を素早く確認できます。

| 番号 | アイコン | 説明 |
|----|------|---|
| ① | | ベースステーションのマスター/スレーブモードを示します。 ベースステーションがマスターデバイスであることを示します。 スレーブデバイスであることを示します。最大 8 台のデバイスを追加できます。 |
| ② | | デバイス名は [ファームウェアのマイデバイス] で設定でき、一意である必要があります。 |
| ③ | | ベースステーションの接続モードを示します。PC に接続されていることを示します。 |
| ④ | | ベースステーションの接続モードを示します。デバイスがカスケードモードであることを示します。 デバイスデータ循環 カスケード接続されたベースステーション (最大 4 台のスレーブデバイスをサポート) |
| ⑤ | | ベースステーションの接続モードを示します。ファームウェアに接続されていることを示します。 |
| ⑥ | | 12V 現在使用中のベースステーションの商用電源供給レベルを表示します。 DC 現在使用中のベースステーションのリチウムバッテリー電源供給レベルを表示します。 ベースステーションが現在 V 型または G 型バッテリーで電源供給されていることを示します。 |
| ⑦ | | チャンネルグループに対応する色を示し、異なる色は異なるチャンネルを表します。 赤: ディレクション オレンジ: カメラ 黄: オーディオ 緑: ライティング シアン: モバイル グレー: 未割り当て (X 色: 異なる色を区別するための空白カラーボックス) |
| ⑧ | | 現在接続されているヘッドセットのロールを示します |
| ⑨ | | 現在接続されているヘッドセットに対応するグループ番号を示します |

| | | |
|---|---|--|
| ⑩ |  | ヘッドセットの通話ステータスを示します。  ヘッドセットが通話中であることを示します。  ヘッドセットが現在ミュートモードであることを示します。  現在のヘッドセットが切断されているかオフライン状態であることを示します。 |
| ⑪ |  | ベースステーションの現在の接続の信号強度を示します。 |
| ⑫ |  | 現在のチャンネルのヘッドセットの残りバッテリー残量を示します。 |
| ⑬ |  | 現在接続されているヘッドセットのロールを示します。リーダーインジケータの色はカラーボックスと一致しています。 |

ベースステーションの[メニュー]キーを約3秒間長押しして、メインメニューインターフェースに入ります。

5.2 ヘッドセット管理

ヘッドセット管理は主に以下の機能を含みます：

ヘッドセットペアリング

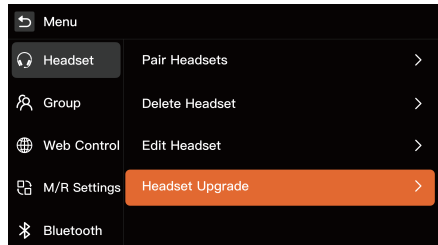
ヘッドセットの削除

5.2.1 ヘッドセットペアリング

新しいヘッドセットをベースステーションに追加する必要がある場合、無線でペアリングを実行できます。

操作パス

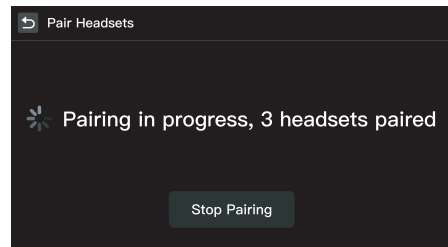
メインメニューで以下を選択します：



[ヘッドセット管理] → [ヘッドセットペアリング]

ベースステーションがペアリングモードに入ると、画面に「ペアリング中」と表示され、ペアリング済みヘッドセット数がリアルタイムで表示されます。

ペアリング手順

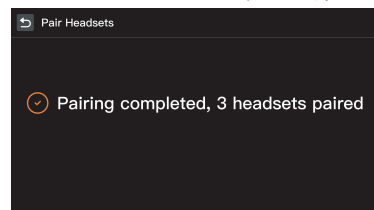


- ① ベースステーションで[ヘッドセットペアリング]に入ります。
- ② ペアリングするヘッドセットの電源ボタンを長押しして、ペアリングモードに入ります。
- ③ ヘッドセットが自動的にベースステーションを検索して接続します。
- ④ ヘッドセットが正常に接続されるたびに、ベースステーションのペアリング済み数がリアルタイムで増加します。

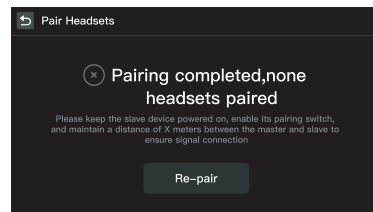
ペアリングの終了

以下のいずれかの条件が満たされると、システムは現在のペアリングセッションを終了します：

- ・ 16 台のヘッドセットが検出・登録された



- ・ ユーザーが[ペアリング停止]を手動でクリックした



- ・ ペアリングが新しいヘッドセットを検出しないままタイムアウトした

ペアリング結果の通知

ペアリングが成功すると、インターフェースに表示されます：

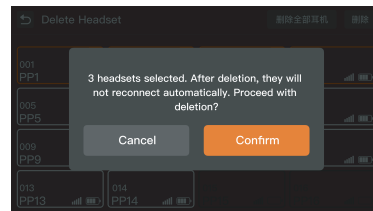
「ペアリング完了、X 台のヘッドセットがペアリングされました。」

タイムアウト前にヘッドセットが検出されない場合、インターフェースに表示されます：

「ペアリング完了、ヘッドセットのペアリングなし。」

この時点で、[再ペアリング]をクリックして再開できます。

5.2.2 新しいヘッドセットのバージョン確認とアップグレードプロンプト



ベースステーションが新しく接続されたヘッドセットのファームウェアバージョンが現在のシステムバージョンと一致しないことを検出すると、システムは自動的にアップグレードプロンプトウィンドウを表示します。

ユーザーが「はい」を選択すると、ベースステーションは対応するアップグレードプロセスを開始します。

アップグレードが完了すると、ヘッドセットは自動的に再起動します。再起動後、ベースステーションに自動的に再接続して正常に機能します。

注意

アップグレードがトリガーされるかどうかは、ヘッドセットの現在のファームウェアバージョンがシステムバージョンと一致しているかどうかによって異なります。

アップグレードプロセス中は、ベースステーションとヘッドセットの電源が適切に供給されていることを確認してください。

アップグレード中に強制シャットダウンまたは切断を行わないでください。

5.2.3 ペアリングに関する注意事項

各ペアリングは現在のベースステーションにのみ有効であり、ベースステーションをまたいで使用することはできません。

複数ベースステーションシステムでは、干渉を避けるために1台のベースステーションのみがペアリングモードにあることを確認してください。

新しいヘッドセットが接続された後にバージョン確認がトリガーされた場合は、正式使用前にアップグレードを完了することをお勧めします。

正式なプロジェクト開始前に、ヘッドセットのペアリング、アップグレード、通話テストを完了することをお勧めします。

5.2.4 ヘッドセットの削除

ヘッドセットが不要になったり、再割り当てが必要になった場合は、[ヘッドセットの削除]機能を通じてバインドを解除できます。

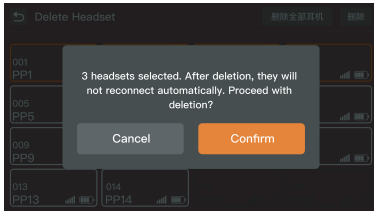
手順

- ① メインメニューで[ヘッドセット管理] → [ヘッドセットの削除]を選択して、ヘッドセットリストページに入ります。

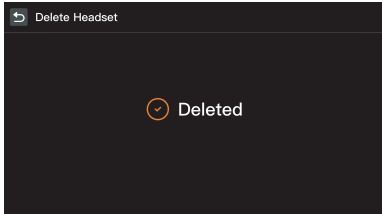
画面には現在ペアリングされているすべてのヘッドセット番号(001~016)、信号強度、バッテリー残量、その他のステータス情報が表示されます。



- ② 削除するヘッドセットをタップして選択します。複数のヘッドセットを一度に選択することも、[すべてのヘッドセットを削除]をワンタップで選択することもできます。右上の[削除]ボタンをクリックすると、システムは確認プロンプトを表示します：



③ [OK]を選択した後、ベースステーションは削除を実行し、インターフェースに「削除中」と表示されます。削除完了後に表示されます:



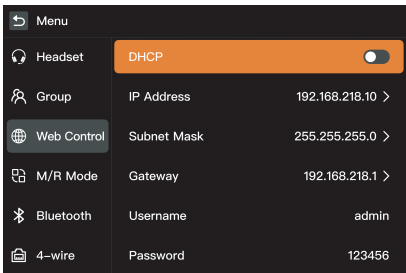
④ 削除されたヘッドセットは、再度使用する前に再ペアリングが必要です。
注意事項:

- ・ヘッドセットを削除してもバインドが解除されるだけで、工場出荷時設定にリセットはされません。
- ・削除されたヘッドセットは電源オン後にベースステーションに自動的に再接続しません。ペアリングプロセスを再度行う必要があります。
- ・システムが安定して動作する前に、各ヘッドセットの番号とロール割り当てを確認し、誤って削除しないようにすることをお勧めします。

5.3 グループ設定(詳細は 4.6 クイックグループ設定を参照)

5.4 コントロールコントロール

[コントロールコントロール]メニューに入り、ベースステーションのネットワークパラメーターとコントロールログイン情報を設定します。



DHCP オン: ベースステーションは IP アドレスを自動的に取得します。ルーターやスイッチなどの動的ネットワーク環境に適しており、OTA アップグレードシナリオにも一般的に使用されます。

DHCP オフ: 固定 IP アドレスを使用します。

固定 IP モードでは、ユーザーは以下のパラメーターを手動で設定できます:

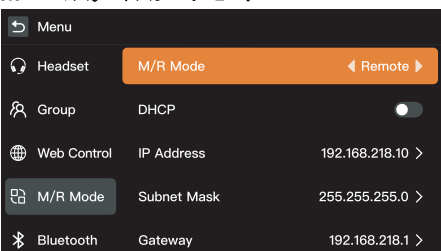
- IP アドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイ
- コントロールユーザー名
- コントロールパスワード(デフォルト: admin/123456)

注意:

ベースステーションをコンピューターに直接接続してコントロール管理またはローカルアップグレードを行う場合は、固定 IP モードを使用し、コンピューターをベースステーションと同じネットワークセグメントに設定することをお勧めします。一時的な使用には、DHCP を直接有効にして IP アドレスを自動取得できます。

長期使用には、まず DHCP で利用可能な IP アドレスを取得し、ネットワーク接続が正常であることを確認した後、DHCP を無効にしてその IP をベースステーションの長期アドレスとして固定することで、その後の管理が容易になります。

5.5 マスター/スレーブモード



[マスター/スレーブモード]メニューに入り、ベースステーションの動作モードを設定します。

マスターデバイス: システムのメインコントロールデバイスとして機能し、ヘッドセットのアクセス、グループ設定、システム管理を担当します。

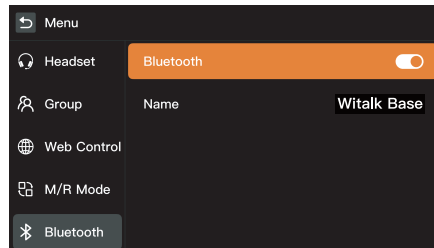
スレーブデバイス: 複数ベースステーションのカスケード接続シナリオでマスターデバイスに接続して管理されます。

注意:

マスターデバイスはカスケード接続のメインコントロールデバイスとして、または独立したスタンドアロンユニットとして使用できます。

スレーブデバイスは主に複数ベースステーションのカスケード接続シナリオで使用されます。

5.6 Bluetooth



[Bluetooth]メニューに入り、ベースステーションの Bluetooth 名と現在の接続ステータスを確認します。

Bluetooth ステータスの説明:

インジケータライト点灯: Bluetooth が有効

インジケータライト消灯: Bluetooth が無効

注意:

各ベースステーションは、一度に 1 台のモバイルデバイス(スマートフォンやタブレットなど)の Bluetooth 接続のみをサポートします。

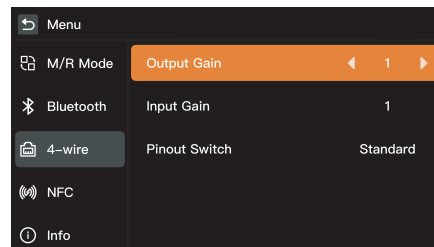
複数ベースステーションのカスケード接続シナリオでは、スレーブデバイスの BLE ブロードキャストが自動的に無効になります。

5.7.4 ワイヤ設定

[4 線接続設定]メニューに入り、ベースステーションの 4W インターフェースの入出力レベルとワイヤー構成を調整します。

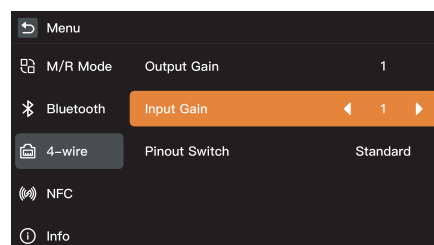
1. [入力ゲイン]アイコンを選択し、外部信号源の入力音量に基づいて、左右方向キーを使用してベースステーションが受信する音声のゲインレベルを調整します。調整範囲: 0~100。

推奨事項: 信号が弱い場合は、信号過負荷と歪みを避けるため、ゲインを適切に増加させてください。

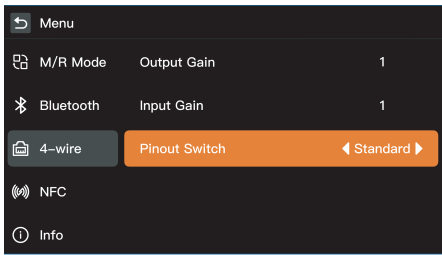


2. [出力ゲイン]アイコンを選択します。左右方向キーを使用して、外部デバイスの受信音量に応じてベースステーションの音声出力ゲインレベルを調整します。

調整範囲: 0~100。推奨事項: 外部ミキサーまたはインターコムシステムに接続する場合は、デフォルト値 60 から開始し、実際のモニタリング条件に基づいて微調整してください。



3. [ピンアウト切替]アイコンを選択し、接続デバイスの配線規格に従ってベースステーションの 4W インターフェースのピンアウトモードを切り替えます:



スタンダードモード: ベースステーションが類似システムに接続する場合に使用します(デフォルト)。

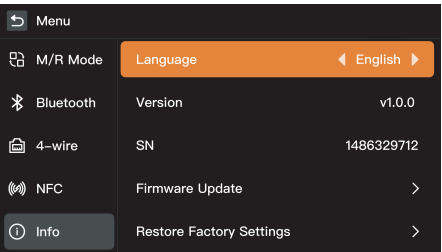
クロスオーバーモード: ベースステーションが特定のサードパーティシステムに接続する場合に使用します(例: 入出力ピン定義が逆になっている場合)。

注意: 音声なしまたは信号異常が発生した場合は、ワイヤー順序モードを切り替えて正しい音声方向を確保してみてください。

5.8 情報

[情報]メニューでは、ベースステーションの基本情報、システムバージョン、シリアル番号を確認し、言語切り替え、ファームウェアアップグレード、工場出荷時設定にリセットなどの操作を実行できます。この機能はシステムメンテナンス、バージョン管理、言語調整に使用されます。

5.8.1 言語選択



ベースステーションの表示言語を切り替えるために使用します。現在のバージョンは4つの言語をサポートします: 中国語、英語、ロシア語、日本語で、左右方向キーで選択できます。

5.8.2 ソフトウェアバージョン番号

現在のベースステーションファームウェアバージョン(例: V1.0.0)を表示します。アフターサービスへのお問い合わせの際は、システムの互換性を確認するためにこのバージョン番号をお知らせください。

5.8.3 SN

ベースステーションの固有の製造シリアル番号を表示します。製品登録、アフターサービス、システム識別に使用します。大切に保管してください。

5.8.4 ファームウェアアップグレード

ファームウェアアップグレードページに入ります。ユーザーはネットワークを介してデバイスのファームウェアを更新できます。アップグレードプロセス中は電源を切ったりストレージデバイスを取り外したりしないでください。

5.8.5 工場出荷時設定にリセット

ベースステーションを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。復元後、すべてのペアリング記録、グループ設定、システム設定が消去されます。慎重に操作してください。

6 コントロールインターフェース設定

6.1 コントロールインターフェースへのログイン

WiTalk BASEはコンピューターまたはモバイルブラウザからアクセスして、ファームウェアのアップグレード、ヘッドセットのグループ設定、ステータス確認のためのコントロール管理インターフェースに到達できます。

2つのログイン方法がサポートされています: 無線ログイン(クイックアクセスに適切)と有線ログイン(推奨、安定した設定とアップグレードに適切)。

方法1: ベースステーションホットスポットを介したログイン(クイックアクセスに適切):

- ① ベースステーションの電源をオンにして、約10秒待ちます。ベースステーションは自動的に内蔵WiFiホットスポットを有効にします。
- ② スマートフォンまたはコンピューターのWiFiリストで、ベースステーションのホットスポットを見つけて接続します: WiTalk_Base_XXXX(デフォルトパスワード: 12345678)
- ③ ブラウザーを開き、アドレスバーに入力します: http://192.168.2.1
- ④ ログインページでユーザー名とパスワードを入力してシステムにアクセスします。

デフォルトのログイン情報:

ユーザー名: admin

パスワード: 123456

注意: スマートフォンでアクセスする場合は、より安定した接続のためにベースステーションから3メートル以内に行ってください。

方法2: イーサネットケーブルを介したログイン: (推奨、安定した設定とアップグレードに適切)

1. イーサネットケーブルを使用してBASEをコンピューターに直接接続するか、BASEとコンピューターの両方を同じローカルエリアネットワークに接続します。

2. ベースステーションのメニューボタンを長押し → [コントロールコントロール]を選択し、DHCPオプションをオフに設定します。(このページでベースステーションのIPアドレスとパスワードを確認することもできます)

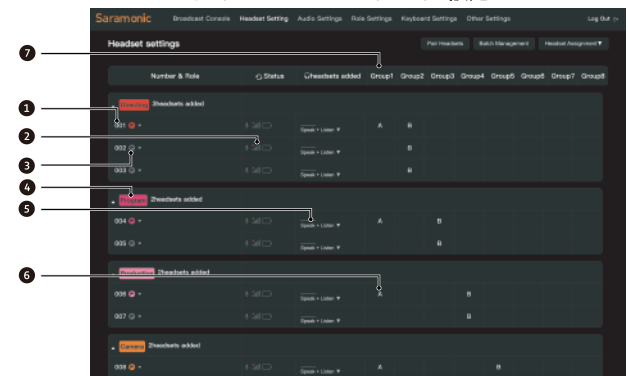
3. コンピューターのネットワークセグメントをベースステーションのネットワークセグメントと一致するように設定します。

イーサネットケーブルでコンピューターをベースステーションのRJ45ネットワークインターフェースに接続します。コンピューターのネットワークアダプターIPアドレスを[192.168.218.XXX]に設定します。ベースステーションのデフォルトIPアドレスは[192.168.218.10]で、サブネットマスクは[255.255.255.0]です。



4. コンピューターでブラウザを開き、ベースステーションのIPアドレスを入力します: http://192.168.218.10。ユーザー名とパスワードを入力してログインし、コントロール設定インターフェースにアクセスします。(デフォルトユーザー名: admin、パスワード: 123456)

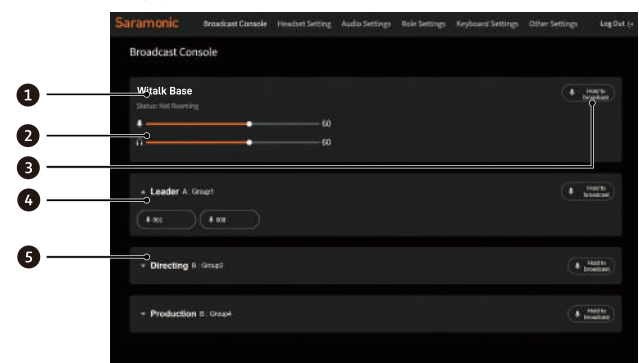
6.2 コントロールインターフェース - ヘッドセット設定



- 1 - デバイスID
- 2 - ヘッドセットステータス(白: オンライン; グレー: オフライン)
- 3 - リーダーインジケーター
- 4 - デバイスロール
- 5 - デバイス権限
- 6 - デバイスボタンに割り当てられたグループ
- 7 - 利用可能なグループ

注意: ロールグループ列を長押しして、順序を上下に調整します。

6.3 ブロードキャストコンソール



- 1 - ホスト情報バー

現在のホスト名(例:「Base1」)とカスケード状態を表示し、複数のホスト操作を区別しやすくします。

2 - ゲインコントロール

現在のベースステーションのマイク入力音量とヘッドフォンモニタリング音量を表示します。手動で調整できます。

3 - グループブロードキャスト

ボタンを長押しして、グループ内のすべてのメンバーにブロードキャストします。

グループ内のすべてのデバイスは強制的にリスニング専用モードになり、話すことができません。

ボタンを離すと、システムはミュートに戻り、グループ内の他のデバイスは元の権限を復元します。ディレクターやディスパッチャーが統一命令を出すのに適しています。

4 - グループモジュール

三角形アイコンをクリックして、グループコンテンツを展開または折りたたみます。

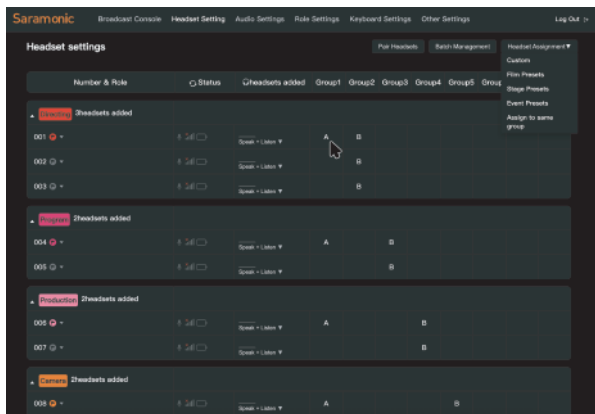
ロールグループの右側の空白エリアを長押しして、ロールグループの順序を並べ替えます。

5 - グループ内のデバイス

各ヘッドセットの番号と接続ステータスをモジュールカード形式で表示します(白:オンライン;グレー:オフライン)。

デバイスアイコンを長押しして、1対1の通話を開始します。通話中、他のヘッドセットには影響しません。

6.4 デバイスボタングループ設定



ボタングループ設定

グループ設定ページで、各ヘッドセットのA/Bトークボタンに対応するグループを割り当てることができます。

対応するヘッドセットの右側の黒い四角をクリックします。各クリックでA/B/なしが順に切り替わり、ヘッドセットが対応するグループ「1」/「2」/「3」などに割り当てられたことを示します。

同じヘッドセットのAとBボタンは異なるグループに割り当てることができます。例えば:

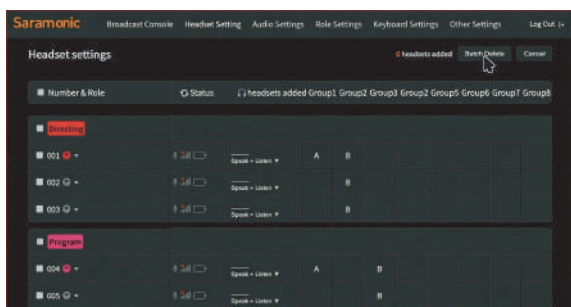
Aボタンはグループ1に割り当て

Bボタンはグループ2に割り当て

注意:

ヘッドセットのA/Bボタンはトークグループを素早く切り替えるために使用します。A/Bグループの両方を同時にモニタリングできますが、話すことができるのは現在アクティブなグループ内のみです。

6.5 ヘッドセットデバイスの削除



ヘッドセットデバイスの削除

右上の[一括管理]をクリックして、デバイス削除インターフェースに入ります。このインターフェースでは、現在のベースステーションシステムに登録されているヘッドセットデバイスを手動で選択できます。削除するデバイスを選択した後、右上の[すべてのヘッドセットを削除]ボタンをクリックして削除を確認します。システムは選択されたヘッドセットのペアリング情報を自

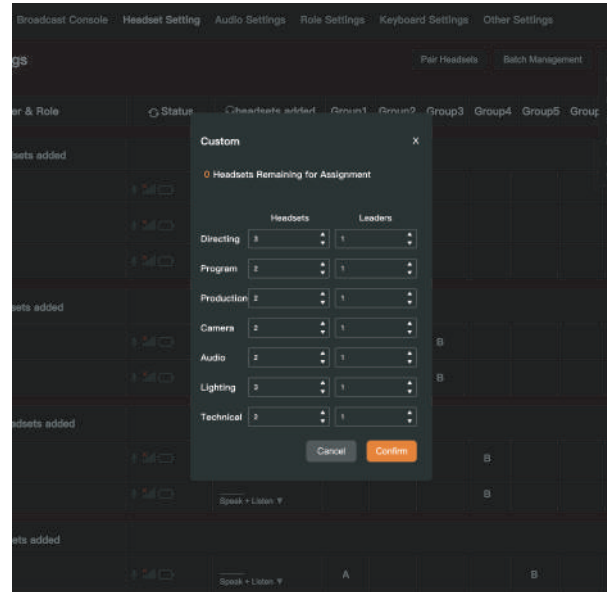
動的に消去し、デバイスは未バインド状態に復元されます。

注意: 削除後、ヘッドセットは再ペアリングできます。

デバイスが誤って削除された場合は、再ペアリングプロセスを通じて再バインドできます。

6.6 手動設定(カスタムグループ設定を例として)

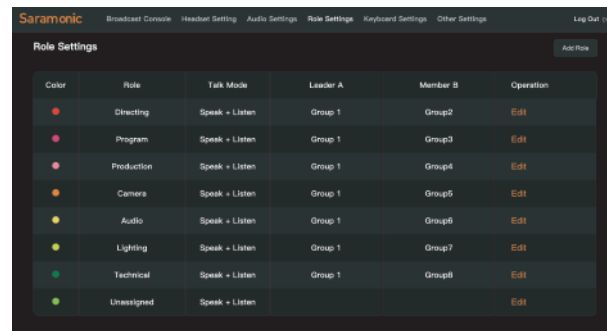
ヘッドセット設定ページの右上にある[ヘッドセットグループ設定]をクリックし、カスタムグループ設定を選択して設定メニューに入ります。このインターフェースでは、ベースステーションがサポートするすべてのデバイス(オフラインデバイスを含む)に必要なロールを手動で割り当てることができます。



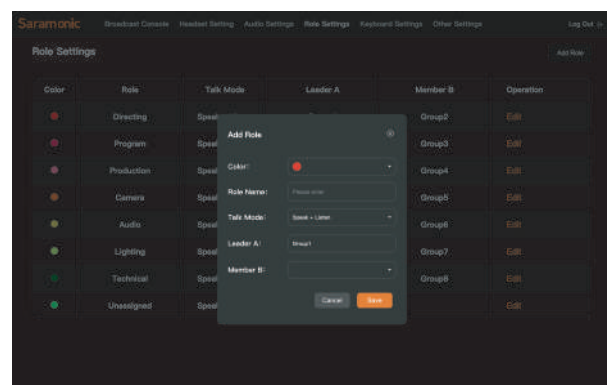
6.7 ロール管理

トップメニューバーの[ロール設定]をクリックして、ロール設定インターフェースに入ります。

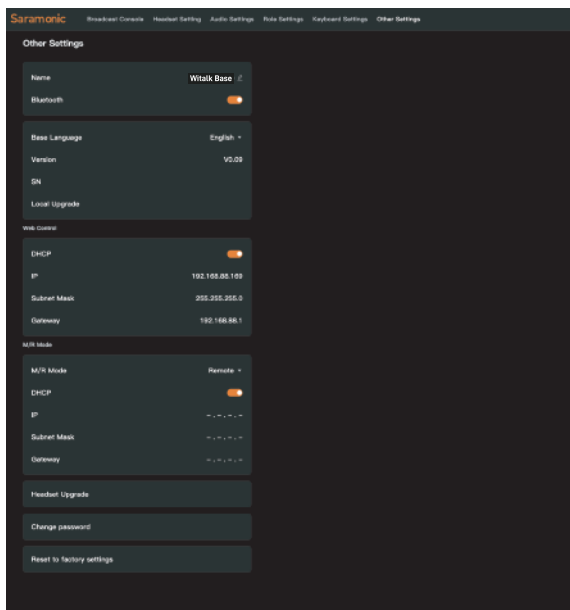
このページは、色識別、ロール名、トークモード、デフォルトグループなど、異なるポジションの対応するロール属性を定義するために使用されます。システムは定義されたロールテンプレートに基づいて、[グループ設定]ページで対応するヘッドセットグループとトークモードを自動的に生成します。



[ロールグループの追加]をクリックして、各ロールグループのステータスとトークモードを個別に変更します。変更後、[保存]をクリックして変更を適用します。

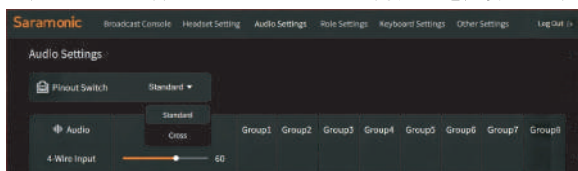


注意: 工場出荷時設定にリセットを通じて、ロール設定をデフォルト状態に復元できます。



6.8 オーディオ設定

これは WiTalk BASE と外部デバイス(コンピューター、ミキサー、ウォークーキーなど)間の音声入出力関係を設定するインターフェースです。ユーザーはここで各インターフェース(UAC、4線接続、3.5mm)の信号方向、ゲインレベル、異なるグループへの出力割り当てを定義できます。



音声マトリクスルーティング

行: ベースステーションと外部インターフェース間の「入出力チャンネル」を表します。

列: システム内の「トークグループ」を表します。

チェックボックス: このチャンネルの音声信号を対応するグループにルーティングすることを示します。

例えば:

「グループ 2」で「4線入力」にチェックが入っている場合、グループ内のすべてのヘッドセットが

4線接続インターフェースからの信号(例:ウォークーキーの返送音声)を聴くことができます。

「グループ 5」で「UAC 出力」にチェックが入っている場合、コンピューターはグループ 5 の音声信号(例:ライブ配信音声)を受信できます。

6.9 その他の設定

トップメニューバーの[その他の設定]をクリックして、ベースステーションのシステムとネットワークの総合設定インターフェースに入ります。

このページはベースステーションの基本情報、ネットワークパラメーター、言語設定、システムアップグレードオプションを変更するために使用されます。

コントロール言語

コントロールインターフェースの表示言語を設定します。中国語 / 英語 / ロシア語 / 日本語から選択できます。

ベースステーション情報

ベースステーション名を表示・変更でき、Bluetooth および NFC 機能の有効化/無効化をサポートします。

ベースステーションバージョン

ベースステーションのソフトウェアバージョン番号とシリアル番号(SN)を表示します。「ローカルアップグレード」でファームウェアのアップデートを実行できます。

マスター/スレーブ設定

ベースステーションの動作モード(マスターデバイス/スレーブデバイス)を設定します。複数のベースステーションをカスケード接続する場合、そのうちの1台を「マスターデバイス」に指定する必要があります。

ヘッドセットのアップグレード

接続されたヘッドセットデバイスのファームウェアをアップデートします。

アカウントパスワードの変更

コントロールログイン認証情報を変更します。

工場出荷時設定にリセット

すべてのベースステーションパラメーターをデフォルト値にリセットします。接続および登録されているすべてのヘッドセットデバイス情報が完全に消去されます。

使用上のヒント

① ネットワークの設定またはデバイスのカスケード接続を行う場合にのみ、DHCP と IP アドレスのパラメーターを調整することをお勧めします。

② システムに異常が発生した場合は、「工場出荷時設定にリセット」でデフォルト設定を復元できます。

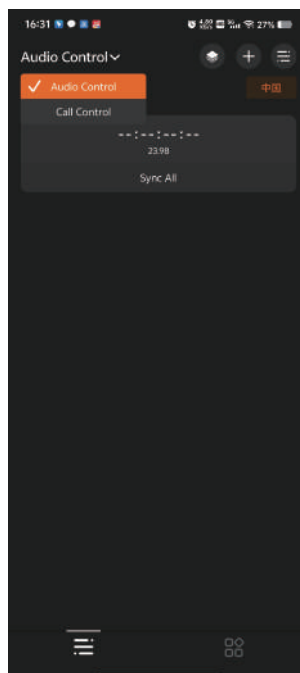
③ ローカルアップグレードを実行する前に、ベースステーションの電源が安定していることを確認し、提供された公式アップグレードファイルを使用してください。

7 WiTalk BASE ファームウェア設定マニュアル

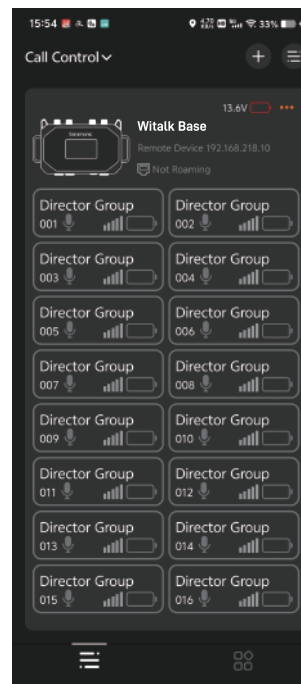
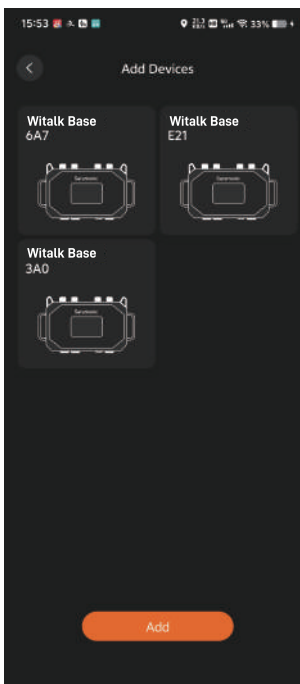
7.1 ファームウェア設定

7.1.1 ベースステーションへの接続

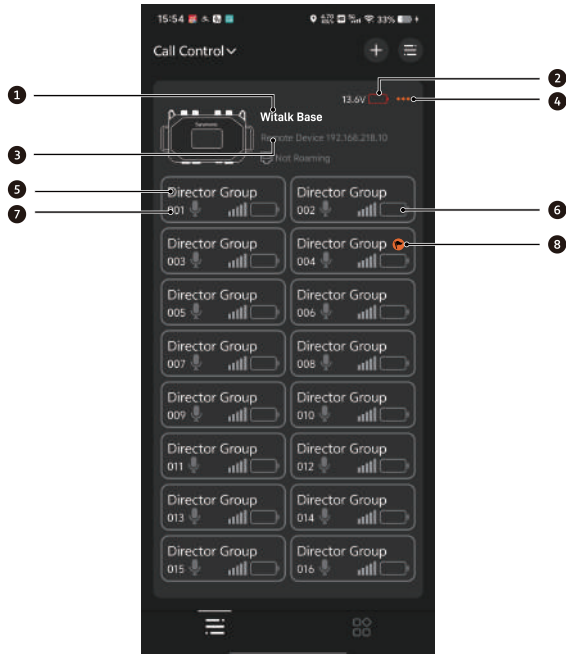
- 「Saramonic System」ファームウェアをダウンロードする
- スマートフォンの Bluetooth をオンにし、「Saramonic System」ファームウェアを開きます。初回ユーザーは、左上の[オーディオコントロール]をクリックして[トークコントロール]に切り替え、[+]ボタンをクリックして WiTalk BASE デバイスをバインドします。



- デバイスの Bluetooth 名に基づいてバインドするデバイスを選択し、「確認」をクリックしてデバイス接続を完了します。

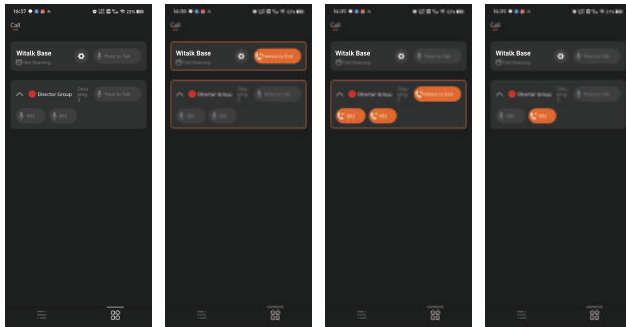


7.2 ベースステーションホームページ



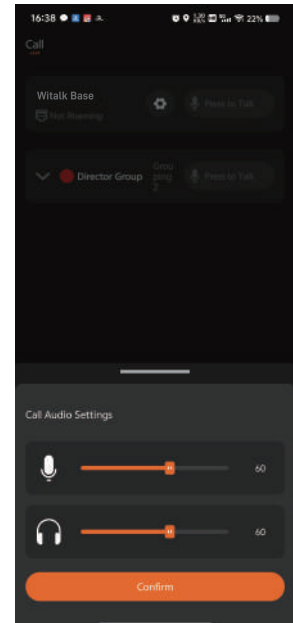
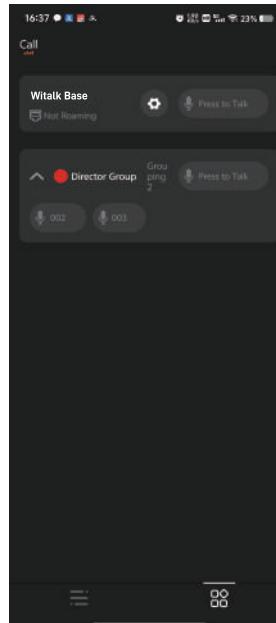
- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. ベースステーション名 | 5. デバイスロール |
| 2. ベースステーションバッテリー残量 | 6. デバイスステータス |
| 3. ベースステーション情報 | 7. デバイス番号 |
| 4. ベースステーション設定 | 8. リーダーインジケータ |

7.3 ブロードキャストコントロール



右下のコンソールアイコンをクリックして、ブロードキャストコントロールコンソールに入ります。対応する「プッシュアウトーク」ボタンを長押しして、WiTalk BASE デバイスを通じてすべてのロールグループ、特定のロールグループ、または個別のヘッドセットにブロードキャストします。

| 機能 | 説明 |
|----------------|---|
| 全体ブロードキャスト | WiTalk BASE の「押しながら話す」を長押しして、すべてのグループにブロードキャストします |
| グループブロードキャスト | グループの「押しながら話す」を長押しして、そのグループ内にブロードキャストします |
| ヘッドセットブロードキャスト | ヘッドセット ID を長押しして、特定のヘッドセットにブロードキャストします |

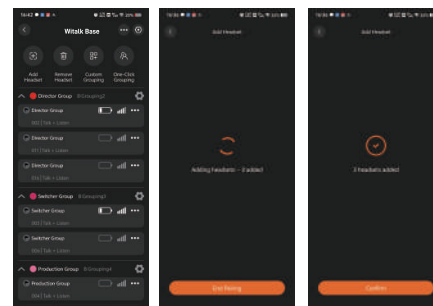


トップデバイスの設定ボタンをクリックして、WiTalk BASE の通話の入力音量とリスニング音量を設定します。

7.4 ベースステーション設定

ホームページのベースステーションエリアをタップして、ベースステーション設定ページに入ります。ここでヘッドセットの追加、削除、カスタムグループ設定、その他の設定ができます。

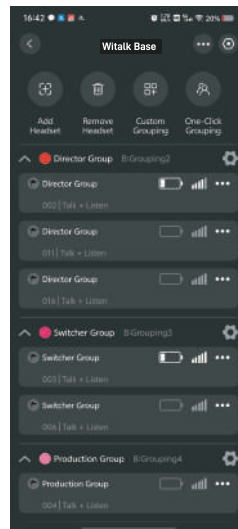
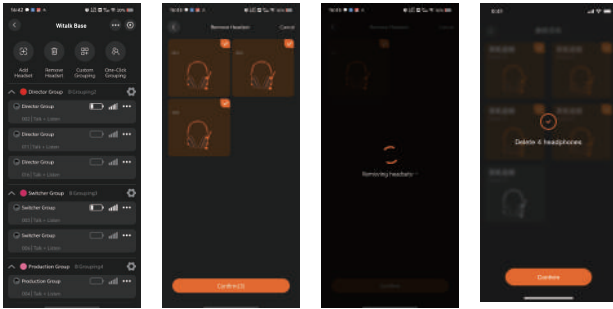
7.4.1 ヘッドセットの追加



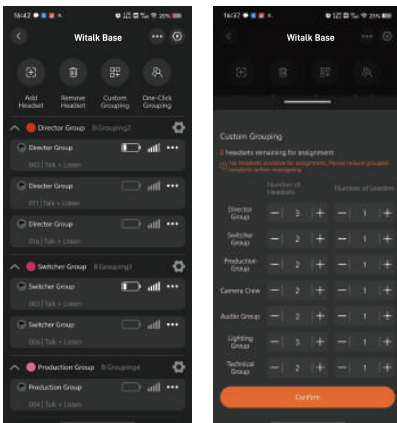
[ヘッドセットの追加]ボタンをタップした後、ベースステーションはヘッドセットペアリングモードに入ります。この時点で、ヘッドセットのペアリングモードも有効にして、ベースステーションとヘッドセット間の接続を完了してください。ヘッドセットが正常にペアリングされたら、[ペアリング終了]をタップしてベースステーションのペアリングモードを終了します。

7.4.2 ヘッドセットの削除

[ヘッドセットの削除]ボタンをタップして、ヘッドセット削除インターフェイスを開きます。削除するヘッドセットを選択し、[確認]ボタンをタップして削除を確認します。



7.4.3 カスタムグループ設定



[カスタムグループ設定]

をタップしてグループ設定ページに入り、ベースステーション下の16台のデバイスにロールを割り当てることができます。各ロールグループのヘッドセット数とリーダー数を手動で設定できます。

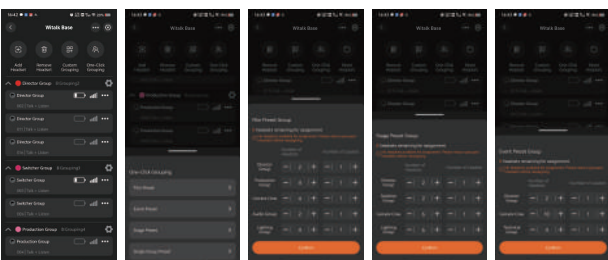
各ロールグループでは、リーダー数はヘッドセット数を超えることはできません。

設定が完了したら、[確認]ボタンをタップします。システムはロール設定を保存し、ベースステーションとすべてのペアリング済みヘッドセットに同期します。

7.4.4 ワンタップグループ設定

[ワンタップグループ設定]をタップして、ロールを素早く割り当てます。プリセットメニューに入った後、目的のシナリオプリセットを選択してプレビューし、各ロールグループのヘッドセット数とリーダー数を手動で調整します。プリセットメニューに入った後、目的のシナリオプリセットを選択してプレビューし、各ロールグループのヘッドセット数とリーダー数を手動で調整します。

注意:[1グループプリセット]を選択すると、すべてのヘッドセットが自動的にディレクターグループに割り当てられます。

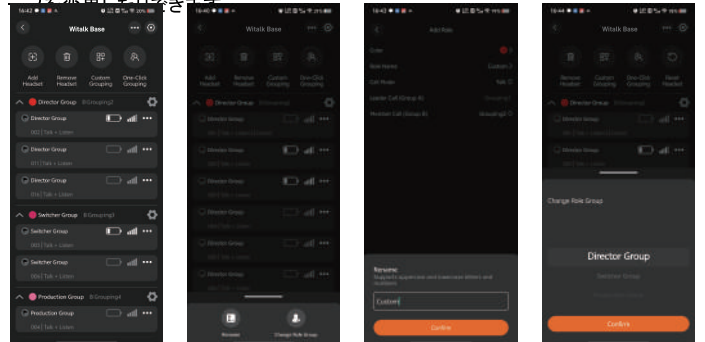


7.4.5 ヘッドセットのリセット

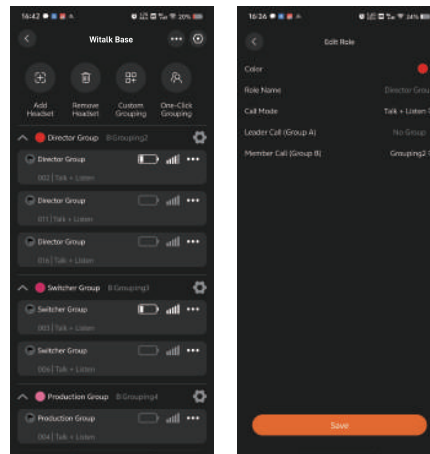
[ヘッドセットのリセット]をタップすると、ベースステーション内のすべてのヘッドセット設定が工場出荷時のデフォルトに復元されます。

7.4.6 ヘッドセット設定

ヘッドセットリストの右側の[...]ボタンをタップして、設定ポップアップを開きます。ここでヘッドセットの名前を変更したり、割り当てられたロールグループを変更したりできます。



7.4.7 ロールグループ設定

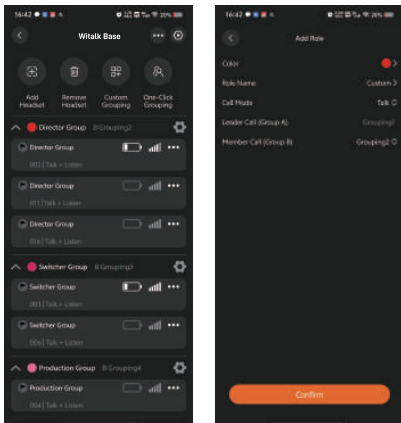


ロールグループの

右側の[設定]ボタンをタップして、ロール編集ページに入ります。このページでは、ロールグループの色識別子、グループ内のヘッドセットのトークモード、リーダーとメンバーのトークグループ割り当てを調整できます。

[保存]をタップすると、システムはロールグループ設定を保存し、ベースステーションと対応するロールグループ内のヘッドセットに同期します。

7.4.8 新しいロールグループの追加

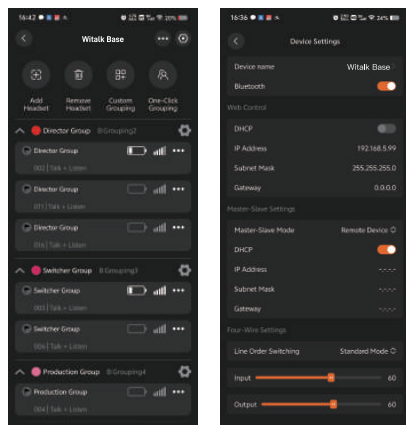


[ロールグループの追加]をタップして、カスタムロールグループを作成します。

このページでは、新しいロールグループの色識別子、名前、グループ内のヘッドセットのトークモード、リーダーとメンバーのトークグループ割り当てを設定できます。

[保存]をタップすると、システムはロールグループ設定を保存し、ベースステーションに同期します。

7.4.9 コントロールコントロール

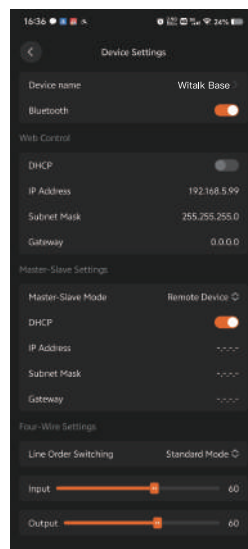


デバイス詳細ページの右上にある[...]ボタンをタップして、デバイス設定ページに入ります。

このインターフェースでは、ベースステーションのコントロールページのIPアドレスを自動取得するか手動設定するかを選択できます。

DHCPスイッチを有効にすると、システムはベースステーションのコントロールページのIPアドレスを自動的に割り当てて生成します。DHCPを無効にした後、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ情報を手動で入力できます。実際のネットワーク環境に応じて設定してください。

7.4.10 マスター/スレープ設定



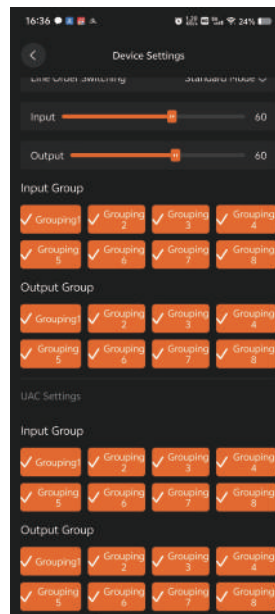
[デバイス設定]インターフェースで、ベースステーションのマスター/スレープモードとネットワーク設定を変更できます。

このインターフェースでは、ベースステーションのIPアドレスを自動取得するか手動設定するかを選択できます。

DHCPスイッチを有効にすると、システムはベースステーションのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを自動的に割り当てて生成します。

DHCPを無効にした後、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ情報を手動で入力できます。実際のネットワーク環境に応じて設定してください。

7.4.11 4線接続設定

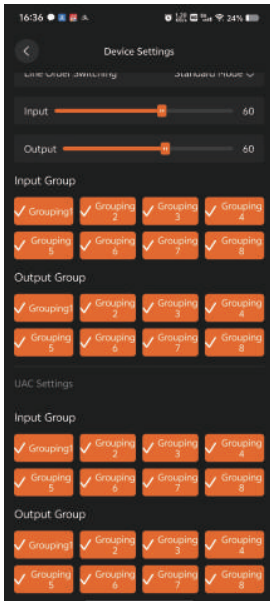


4線接続インターフェースの設定は[デバイス設定]ページで確認できます。

ユーザーは入出力音量に基づいて適切な音量レベルを選択し、ベースステーションの4線接続インターフェースのピンアウトモードを「スタンダードモード」または「クロスオーバーモード」に設定できます。

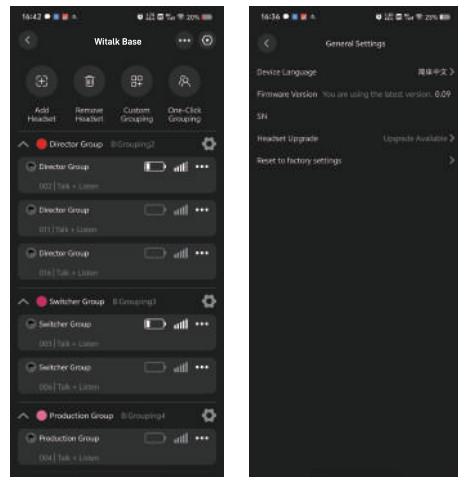
実際の要件に基づいて、入出力のトークグループを選択し、対応するグループボタンを強調表示して、4線接続インターフェースを介してカスケード接続された他のデバイスとの間でそれらのグループの音声信号をルーティングします。

7.4.12 UAC 設定



UAC 音声設定は[デバイス設定]ページで確認できます。実際の要件に基づいて、入出力のトークグループを選択し、対応するグループボタンを強調表示して、UAC インターフェースを介してカスケード接続された他のデバイスとの間でそれらのグループの音声信号をルーティングします。

7.5 一般設定



デバイス詳細ページの右上にある[設定]ボタンをタップして、一般設定ページに入ります。

このインターフェースでは、現在のベースステーションの表示言語、シリアル番号、ファームウェアバージョンを確認できます。

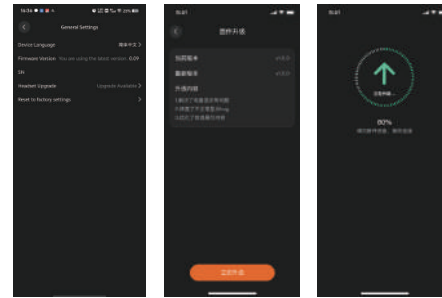
7.5.1 ファームウェアアップグレード



新しいファームウェアアップデートが検出された場合、[一般設定]ページで現在のファームウェアバージョンをタップしてアップグレード情報を確認できます。

[今すぐアップグレード]ボタンをタップして、ベースステーションのファームウェアアップグレードを開始します。

7.5.2 ヘッドセットのアップグレード

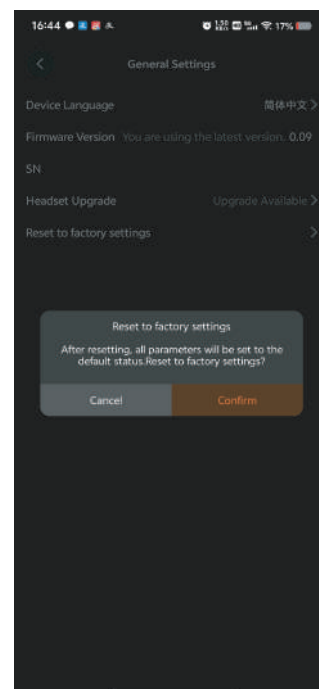


[一般設定]ページでヘッドセットのアップグレードをタップして、現在のベースステーションに接続されているヘッドセットのバージョン情報と利用可能なアップグレードバージョンを確認します。

[今すぐアップグレード]ボタンをタップして、ヘッドセットのファームウェアアップグレードを開始します。

7.5.3 工場出荷時設定にリセット

「工場出荷時設定にリセット」をタップすると、工場出荷時設定に復元されようとしているベースステーションを示すポップアップが表示されます。[確認]をタップして、工場出荷時設定へのリセットを実行します。





For better recording experience, the application **Saramonic System** is recommended.

より良い録音エクスペリエンスのために、アプリケーション Saramonic System をお勧めします。



QRコードをスキャンして完全なユーザーマニュアルにアクセス



QRコードをスキャンしてチュートリアル動画にアクセス

Shenzhen Jiayz Photo Industrial., Ltd
深圳市长丰影像器材有限公司

A16 Building, Intelligent Terminal Industrial Park of Silicon Valley
Power, Guanlan, Longhua District, Shenzhen, China
深圳市龙华区观澜街道大富工业区硅谷动力智能终端产业园A16栋

☎ 400-613-1096 🌐 www.saramonic.com ✉ support@saramonic.com

| | | | | | |
|---------------------------------|------------------|-------|----------------|----|-----|
| JIAYZ 长丰 深圳市长丰影像器材有限公司 | | | | | |
| 产品/零件名称 | WiTalk BASE日文说明书 | 比例 | 1:1 | 版本 | V01 |
| 工程图号 | WiTalk BASE日文说明书 | 物料描述 | 100克书纸 骑马钉 P20 | | |
| 物料编号 | 1F0300400653 | 尺寸/用量 | 210x297mm 1PCS | | |
| 是否需要承认书 | 是 | 正负公差 | 0mm | | |
| 制图人/日期 | 贺磊/2026.5.20 | | | | |

| 修改名称 | 版本 | 变更内容 | 变更日期 | 变更担当 |
|------|-----|------|-----------|------|
| | V01 | 首次发行 | 2026.5.20 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |